

**いろいろな形で伝え合うことができる**

**思いやりの気持ち**

態度で      言葉で      表情で  
行動で

II 他人の心かけ

2  
あたたかい心  
ととけよう

高知の道徳  
44ページ

二学期早々9/7（水）、6年2組で道徳の公開授業を行いました。私たちの道徳5・6年の中にある「最後のおくり物」の教材を使って「親切・思いやり」について相手の立場に立って考える授業でした。ねらいは、「困っているロペールに対するジョルジュじいさんの心温かな行動からどんな思いを感じたかを話し合う活動を通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。」という内容でした。全員発言を目標に親切・思いやりについて考え、終末では考えたこと、感じたことをまとめました。そして、道徳ノートでは、「私たちの道徳」P62にある『行為の意味』を読んで、家に帰ってから家庭学習として自分の思いや考え方をまとめました。

**道徳ノートより** 宮本：私は「行為の意味」を読んで、心や思いとかは、普通は目に見えないと思っていたけど「心づかい」や「思いやり」は見えることを知って、目に見える心と思いを大切に、相手のことを考えて行動したいなと思います。

これから自分が生活して行く中で、あたたかい心と優しい思いを持って生活していきたいなと思います。理由は、2つを持っていれば相手や仲間と分かり合えるからです。なので、自分で考えて、みんなにめいわくをかけないようにしたいと思います。

山崎：私は、「行為の意味」を読んで、思いやりの心は自分にも他人にも見えないけど、人に対する積極的な行為ではないかと思います。そして、人が思いやりの心を持つことが、人として生きるために大切ということを知りました。

私は、これから「家族」「友達」「先生」「知らない人」でも思いやりで接したいと思います。それに、「思い」は見えないけれどいろいろな形で伝えられるのも知りました。

「表情」で「行動」で「言葉」で「態度」で思いやりを伝えていきたいと思います。相手のことを考えて気持ちを表して、どうすれば相手のためになるのかを考えて行こうと思いました。

新谷：最後のおくりもの 「行為の意味」を読んで特に「あたたかい心が～・・・」の最後の部分が残りました。これからの思いやりの形は行動や言葉だと思います。最後のおくりものの思いやりは相手の立場になって考えるということでした。私も相手の立場になって考えることはとても大切だなと思いました。さらに思いやりということは他にもたくさんあると思います。私は、思いやりをもって行動するようにしたいです。

校長より：3人とも、「思いやり」のことについて考え、これからの生き方に活用しようと考えています。その他の子ども達も「思いやり」について、自分なりによく考えてまとめていました。